

心のコップを上向きに！

昨日、地域の方から、このようなお電話をいただきました。

「先日、小学校1年生の甥っ子が拾六間の〇〇付近で事故にあった時に、近くにいた三尻中学校の女子生徒が優しく声をかけてくれました。その声に、甥っ子も私たち家族も、とても励まされました。感謝しています。」

本当にありがたいお電話でした。事故にあった小学校1年生の男の子は、身体の痛みを耐えながら、不安でいっぱいだったと思います。ご家族の方の心配も想像に難くありません。そういう中で、男の子の痛みや不安に寄り添った、この女子生徒の思いやりにあふれた行動が、どれほど男の子やご家族のお力になったのか…、いただいたお電話からそれがよくわかりました。三尻中学校の生徒に、このような生徒がいることを誇らしく思います。

ここでは「心のコップを上向きに！」というお話をします。心の中に実際にコップがあるわけではありません。周りの人（お家の人や先生など）のアドバイスや教えなどを受け入れる心をコップに例えているのです。皆さん一人一人が自分の手にコップを持っていることをイメージしてください。そのコップが上を向いていれば、水でもジュースでも、たくさん入ります。（実際にコップに水を入れる①）。周りの人のアドバイスや教えなどをどんどん受け入れ、多くのことを身につけるということです。それでは、コップが傾いていけばどうでしょうか。（実際にコップに水を入れる② → ①と②を比較する）。あまり入りませんか。では、下を向いていけば…、何も入らないどころか、周りが汚れてしまいます。周りの人のアドバイスや教えが逆効果となってしまうのです。

皆さんの心のコップは、現在、上を向いていますか？もし、斜めに傾いていたり、下を向いていたりするのであれば、ぜひ上に向けたいものです。上に向けた方法はあるのでしょうか？実際に「心」を外にとりだして、向きを変えることはできませんから、すぐにできる簡単な方法はないのかもしれませんが、それでも、方法はあると思っています。先月の全校朝会で紹介した宮澤章二さんの詩の一節「〈こころ〉はだれにも見えない / けれど〈こころづかい〉は見えるのだ」を思い出してみてください。「こころづかい」のように、目に見える言葉や行動をまっすぐに正しくすることで、心のコップも上を向くのではないかと、私は考えています。例えば、挨拶や「ごめんなさい」（熊谷の子どもたちは、これができます！4つの実践）の言葉、脱いだ靴はそろえておく、時間は守る、服装や持ち物など自分の身の回りを整えるなどの行動が挙げられます。このような、特別なことではなく、当たり前前のことを当たり前に行うことが大切だと考え、私なりに続けています。

皆さんも、目に見える自分自身の言葉や行動を正しくまっすぐにしてください。心のコップはおのずから上を向いてきます。そうなれば、周りの人から多くを学び、多くのことを受け入れ、吸収し、大きく成長するのだと思います。

心のコップを上に向けましょう！